

大草谷津田いきものの里 自然観察会

からまる植物

芳我めぐみ（千葉市）

日 時：2011年6月5日（日）10時30分～12時 天候：晴のち曇り

参加者：10名（大人6名 子ども4名）

担当指導員：松本美千代・芳我めぐみ

梅雨の最中でもお天気に恵まれた観察会を行えました。この日は生物多様性センターの「生命のにぎわい調査団」団員の研修会が10時から同所で行われていました。日が重なっているが大丈夫だろうか？とセンターの先生から打診されましたが、観察会のテーマが地味？なので参加者は少ないと予想していました。予想通りとなってしまいましたが少人数ならではのゆっくりと参加者の子供たちの目線で行うことができてよかったです。初めにからまる植物＝ツル植物とは自立できる茎を作るエネルギーを他の草や木に頼ることによって高い位置まで到達して光を獲得しようと進化した種類のものだと話しました。よじ登るためにツル植物はどのような戦略を持っているのか、観察することにして出発しました。入口付近で杉にキヅタが絡んでいます。キヅタの茎から根を出して幹に張り付いている様子を見ていると、足元では早速落ち葉の裏に潜んでいるダンゴ虫を見つけ子供たちは喜んでいます。どうやら今日の観察会はいきもの専門になりそうな雰囲気です。杉林を入って通路の少し上部にアリジゴクの巣穴がいくつもあります。アリジゴクの姿は当然穴に隠れて見えません。この際実際の姿を見てみることにしました。土を掬うとその中からかなり栄養状態のよいアリジゴクが出てきました。



カップに入れて皆で観察。アリジゴクを解放して先に進みます？いえ、次から次へ子供たちの発見が続きました。オオヒラタシデムシ、ザトウムシ、ミミズ・・・お兄ちゃん、お姉ちゃんに負けまいと三歳の男の子が何やら手に持ってみんなにお披露目です。「点がたくさんあるね、いくつあるかな？」「10？11？ああ 10 だ」結論がでたようで「点が 10 個、トホシテントウだね。」食草のアマチャヅルの葉の上で見つけたようです。そのアマチャヅルで巻きひげの観察です。巻きひげは両端が固定されると途中で巻き方が反対になります。これなら強い風が吹いて二点が離れても一つずつの回転がほどけて一直線になって切れにくい。なるほどと思う植物の仕組みです。大きなケヤキには大きなミスジマイマイが、葉の上にはヒダリマキマイマイの赤ちゃんが、あれこれ見ているとめじろんばに出て来る頃には11時半を過ぎていました。

いつもなら湧水に降りて水辺の生き物を観察するところですが、前述の団員の方が多数いたので通り過ぎ田んぼ西側の林縁でミニゲーム？をしました。よじ登るための「ツル植物の戦略」を、まきつき型・よりかかり型・かぎかけ型・まきひげ型・ふちゃく型の五型に分けてツル植物を探し、札をつけてもらいました。親子で探し札をつけそれぞれ発表してもらいました。「三つも札を付けたよ」とギンバエをきれいだと言っていた男の子がうれしそうに報告していました。観察会の時間が少々延びて謝ると五歳の男の子が「その分楽しかったよ」その言葉に担当者二人感激してしまいました。じっくり観察をする子どもたちとそれを静かに見守る親御さん。少人数でしたがうれしい参加者でした。その他ゴマダラオトリシブミ、イチモンジカメノコハムシ、オツネントンボ、大小のコメツキムシ・・・多種いました。